

2019-新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する緊急提言

2019 年末に中国湖北省武漢で発生した新型コロナウイルス(2019-novel Corona Virus、2019-nCoV)による感染症(Coronavirus Disease 2019、以下 COVID-19)については 2020 年 2 月 14 日の時点で、中国国内での感染者が 6 万人を越え、1300 人を超す死亡者数が報告されています。既に日本国内でも中国人や中国への渡航歴のある人だけでなく、感染ルートがはっきりしない患者が次々と報告され、死亡例も報告されました。今後、日本国内のあらゆる地域の医療機関で、感冒症状や肺炎で発症した COVID-19 症例に遭遇する可能性があると考えられます。中国では医療スタッフへの感染も多く報告され死亡例も報告されています。COVID-19 での肺炎は、抗生剤不応の多発浸潤影・スリガラス影を呈すると報告されており、呼吸器科医が日常臨床で遭遇する他のウイルス肺炎、急性・亜急性経過の間質性肺炎などとの鑑別は困難です。このため COVID-19 の肺炎では呼吸器科医が診断目的で気管支肺胞洗浄などの侵襲的検査を行うことがあり得ると予想され、場合によっては COVID-19 を疑わないまま、BAL などの検査を行ってしまう事態も懸念されます。呼吸器内視鏡学会では、COVID-19 を既に日常診療で十分遭遇し得る疾患と捉え、抗生剤不応で原因不明のびまん性陰影を呈する全ての症例において、気道分泌物の吸引、気管内挿管、気管支肺胞洗浄（BAL）などの処置を行う場合の、感染予防策について緊急提言を行い、広く会員に注意を喚起することとしました。

1 原因不明の肺炎・ウイルス性肺炎が疑われ入院を要する症例では標準予防策に加えて接触・飛沫予防を行い可能な限り個室管理とする。

2 上記症例に呼吸管理、吸痰、気管内挿管、気管支肺胞洗浄を行う場合には可能であれば化学防護服、これが使用出来ない場合には少なくともメディカルキャップ（帽子）、N95 マスク、ゴーグルまたはフェースシールド、長袖ガウン、手袋を装着する。

3 呼吸不全を呈し急速に進行する症例、他の診断法で診断できない症例を除いて安易な気管支鏡検査を避ける。

以上

尚、本症においては情報が逐次更新されるので感染対策についても

下記アドレスなどで常に最新の情報を確認してください。

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2484-idsc/9310-2019-ncov-01.html>

2020年2月17日

日本呼吸器内視鏡学会安全対策委員会
今泉和良，中山光男